

安全・景観・環境を提案する"群交協"

第81号

群交協だより

URL:<http://www.gunkoukyou.com/>

令和5年1月10日 発行

発行

群馬県交通安全施設業協同組合

前橋市大手町1-2-6 ☎027-223-3343

発行責任者 久保田 雅之

編集発行人 須田 剛

群馬県交通安全施設業協同組合

理事長 久保田 雅之



明けまして、おめでとうございます。

群馬県交通安全施設業協同組合の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。併せて、新型コロナウイルス感染症との戦いの最前線で頑張っていただいている医療関係者の皆様、感染防止対策にご理解、ご協力をいただいている全ての県民の皆様に、深く感謝を申し上げます。

前年に引き続き、昨年も「新型コロナの抑え込み」と「経済の回復」に全力を注いだ1年でした。同時に、アフターコロナ時代を見据え、新たな富やイノベーションを生み出す政策にも、果敢に取り組みました。日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録する運動に関しては、全国有数の温泉王国である群馬県が中核となって、与党の国会議員連盟や、知事の会を発足させました。遺産登録に向けた強力な推進体制を整えることが出来たと考えています。

明けましておめでとうございます。令和五年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、組合員の皆様には日頃より組合事業運営に対しまして、深いご協力と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も三年目となりました。こうした中、私たちの日々の生活を維持するために不可欠な仕事に従事されている、「エッセンシャルワーカー」の方々に対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年も、感染防止対策の観点から組合活動の一部制限を余儀なくされましたが、「自民党政調懇談会」、「県との意見交換会」、「県警本部交通規制課との交通安全施設施工に関する連絡会議」等、対面会議にて当組合の重点要望、管理者からの叱咤激励、交通安全実施計画など意見交換が叶い貴重な時間を頂きました。

加えて、群馬県が、他県より一歩進んだ「DXの推進」や「災害レジリエンスの強化」を打ち出し、次々と政策を実行していくことで、本県の存在感や評価は、大きく高まつたと感じています。実際、2つの大手企業が群馬県への本社機能の移転を決めました。知事として、こうした動きをとても力強く感じています。

4月には、Gメッセ群馬において、初めて説致に成功した重要な国際会議「G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合」が開催される予定です。群馬県が目指す「デジタル技術による地域課題解決」の推進に大きく弾みをつけると共に、群馬の魅力を世界に向けてアピールする絶好の機会にしたいと考えています。

本年も、群馬県が未来ビジョンとして掲げた「誰一人取り残さず、誰もが幸福を感じる自立分散型の社会の実現」を目指し、知事である私が自ら先頭に立ち、邁進していく決意です。

令和五年一月一日

令和五年一月一日

当組合は、県民の安全と安心を希求する観点から社会資本整備・交通安全施設に係る事業を中心にして道路行政の施策に側面から協力をさせて頂いております。県警本部交通規制課担当者様から工事施工に係る厳しいご指導ご意見を頂く一幕もございました。それもこれも相互信頼関係をより良い形」と事態を重く受け止め会員一丸となり技術の向上に努めてまいります。「道路利用者の皆様に喜んでいただき、社会貢献に繋がれば結果として事業が発展する」という商売の基本に立ち返り、顧客ニーズと多様化高度化する社会課題を的確にとらえ、地域社会がより快適な環境となる様、なお一層の努力と研鑽を続けたいと存じます。

結びに建設業が希望に満ち溢れ会員企業が益々の発展を遂げられるよう皆様と共に歩んでまいりたいと存じます。本年も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げ新令年のご挨拶と致します。

■組合員

ダイケンテクノ(株)・(株)中井産業・富友産業(株)・(株)三積商事・(株)サンテック・サン(株)・(株)信交・(株)ヒロタ・新日東(株)・富士技工(株)・(有)高崎保安機材・共進安全(株)・群馬ライン企画(株)・(株)コムテックス・五菱産業(株)・昭和サイン(株)・中央ライン(株)・(株)日栄ライン工業・(株)日装・マーリングウェイ(株)・(株)三山・(株)友邦

■賛助会員

(株)アークノハラ那須営業所・(株)吾妻商会交通用品部・アトミクス(株)道路事業部・岩澤建設(株)群馬支店・岳南光機(株)・信号器材(株)北関東営業所・新道路企画(有)桐生支店・スリーエムジャパン(株)トランスポーターシーフィティ事業部・積水樹脂(株)群馬工場・燕振興工業(株)・日鉄防食(株)道路資材グループ・日之出水道機器(株)埼玉営業所・扶桑工業(株)群馬営業所・ヨシモトポール(株)関東支店

第42回 通常総会

令和四年五月二十四日(火)群馬ロイヤルホテルにおいて、第四十二回通常総会を感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催し、滞りなく終了する事が出来ました。

開会に当り、久保田理事長が「新型コロナウイルス対策として昨年から引き続き、規模を縮小しての開催となつた。業界を取り巻く情勢は、働き方改革として週休二日制、現場環境の改善、これから業界を担う若手技術者の確保、育成等が求められている。また交通安全対策の重要性を提言し、工事予算の増額や安全定的な事業量の確保などを要望する」と述べました。



- ◇県主催イベント事業である「ぐんま道路フェア」への参加
 - ◇災害時における支援に関する協定の継続講習会・研修会・研究会の開催による技術の研鑽
 - ◇専門工事業技術者の養成と資格取得
 - ◇入札制度と管理制度
 - ◇行政機関・関連団体との連携と提案活動の推進
 - ◇教育情報事業による各部会の活性化
 - ◇組合員に対する福利厚生事業等に取り組むことが盛り込まれています。
 - その後の議事においては、令和三年度事業報告書並びに収支決算報告、令和四年度事業計画並びに予算案等の、第一号議案から第五号議案全てが滞りなく承認されました。

社会貢献事業

第29回交通安全施設研究会

ぐんま道路フェア

地域貢献活動として、令和四年度第一回目の標識・反射鏡等の清掃活動を七月六日・七日の二日間にわたり実施しました。今年は前橋地区、安中地区、富岡地区的三地区（土木事務所管内）で行いました。前橋地区では五、六一五か所、安中地区では二、四五か所、富岡地区では四、九か所（合計一二、八六九か所）の道路標識、道路反射鏡等の清掃・点検、角度調整を組合員で行いました。

令和四年十月二十五日(火)前橋問屋
センター会館において、組合員及び賛助
会員のほか、各関係官厅職員の皆様をお
迎えして「第二十九回交通安全施設研究
会」を開催致しました。

冒頭に、当組合の久保田理事長が「当
組合も交通安全施設の専門業者として、
知識や技能の研鑽を積み、交通安全全県群
馬の確立に向けた一翼を担つて、いきた
い」と挨拶・決意を述べました。

令和四年八月二十一日(日)に前橋市の敷島公園ばら園駐車場にて、「ぐんま道路フェア2022」が開催されました。当フェアは三年ぶりの開催となり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事前予約による入場制限をかけての開催となりました。

当該フェアは、群馬県県土整備部の主催で、道路ふれあい月間ににおける取り組みの一環であり、道路を利用する方々に道路の役割や重要性を改めて認識して頂き、

地域貢献活動として令和四年度第一回目の標識・反射鏡等の清掃活動を七月六日・七日の二日間にわたり実施しました。今年は前橋地区、安中地区、富岡地区の三地区（土木事務所管内）で行いました。前橋地区では五、六一五か所、安中地区では二、四五か所、富岡地区では四、五〇九か所（合計一二、八六九か所）の道路標識・道路反射鏡等の清掃、点検、角度調整を組合員で行いました。

例年初日に出発式を執り行っておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、昨年同様に各班一齊に作業現場に向かい清掃活動を行いました。作業中確認した、破損や老朽化により危険なものや、視認性の低下しているものについて点検調書として取り纏め、道路管理者及び交通管理者の皆様に報告しました。

今後も群交協の社会貢献事業としまして、継続してまいりますので、関係者皆様のご理解ご指導をお願いするとともに、引き続きご協力をお願い致します。

センター会館において、組合員及び賛助会員のほか、各関係官庁職員の皆様をお迎えして「第二十九回交通安全施設研究会」を開催致しました。冒頭に、当組合の久保田理事長が「当組合も交通安全施設の専門業者として、知識や技能の研鑽を積み、交通安全県群馬の確立に向けた一翼を担つていきたい」と挨拶・決意を述べました。

その後に講演へと移り、まず群馬県警察本部交通部交通規制課の石川大哉課長補佐から県内の交通事故発生状況の推移より交通実態を踏まえた交通環境の整備について講演して頂きました。次に全標協路面標示委員会の石井和夫委員長からA-I技術を活用した道路区画線診断システムや全国の交通事故データを地図上で可視化できる『e-坊団』などの紹介をして頂きました。日之内水道機器北関東支店の青井哲平道路／橋梁担当マネージャーから、省スペース基礎で施工が容易なビノダクパイプS、またそれに伴い耐衝撃性ボラードなどの情報共有を図り、技術向上を心掛けて満施工実績を踏まえて講演して頂きました。

これからも引き続き、県民の安全安心を守る交通安全施設業協同組合として、情報を共有を図り、技術向上を心掛けて満進して参ります。



- 令和四年十月二十五日（火）前橋問
センター会館において、組合員及び賛助
会員のほか、各関係官庁職員の皆様をお
迎えして「第二十九回交通安全施設研究
会」を開催致しました。

冒頭に、当組合の久保田理事長が「當
組合も交通安全施設の専門業者として、
知識や技能の研鑽を積み、交通安全県群
馬の確立に向けた一翼を担つていきた
い」と挨拶・決意を述べました。

その後に講演へと移り、まず群馬県警
察本部交通部交通規制課の石川大哉課
長補佐から県内の交通事故発生状況の
推移より交通実態を踏まえた交通環境
の整備について講演して頂きました。次
に全標協路面標示委員会の石井和夫委
員長からA-I技術を活用した道路区画
線診断システムや全国の交通事故データ
を地図上で可視化できる「e-坊団」
などの紹介をして頂きました。日之出水
道機器北関東支店の青井哲平道路／橋
梁担当マネージャーから、省スペース基
礎で施工が容易なヒノダクパイプS、ま
たそれに伴い耐衝撃性ボラードなどの
施工実績を踏まえて講演して頂きました。
これからも引き続き、県民の安全安心
を守る交通安全施設業協同組合として、
情報共有を図り、技術向上を心掛けて邁
進して参ります。

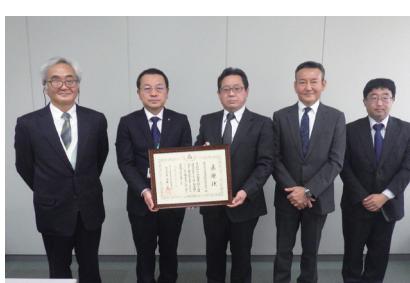


令和四年八月二十一日(日)に前橋市の敷島公園ばら園駐車場にて、「ぐんま道路フェア」が開催されました。当フェアは三年ぶりの開催となり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事前予約による入場制限をかけての開催となりました。

当該フェアは、群馬県県土整備部の主催で、道路ふれあい月間における取り組みの一環であり、道路を利用する方々に道路の役割や重要性を改めて認識して頂き、道路の正しい利用の啓発や道路政策の発信等を、実際にふれ合ない、体験しながら学べるイベントです。

当組合は、交通安全の標語と可愛いイラストが入った交通安全のぬり絵を子供達に塗つてもらいました。その隣では大型案内標識の展示を行い、触れてもらいながら説明をさせて頂きました。近くで見てその大きさに皆さん驚いていたようです。

入場制限があるなか、たくさんの皆様にご来場頂き、私達の仕事をある交通安全の大切さに興味を持つて頂けたと思います。



令和四年十一月二日(金)交通事故により扶養者を失つた子どもたちへ奨学手当などの給付を行う佐藤交通遺児福祉基金に十八万七千五百九十五円を寄付させて頂きました。

寄付金の受贈式は県庁で行われ、久保田理事長から川端宏充常務理事(県道路管理課交通安全対策室長)に寄付金を手渡し、感謝状が贈呈されました。組合側からは久保田理事長のほか近藤青年部理事、須田青年部会長、須藤常務理事が出席しました。

川端常務理事は「交通遺児となつた子供達が健やかに成長してゆけるよう、今後も支えしていくので、引き続きご支援を賜りたい」と述べられました。

当組合では毎年恒例のつり大会で寄付を呼び掛け、募金及び模擬店の売上を寄付させたところ、頂いておりました。本年は、新型コロナウイルス感染症の影響によりつり大会は開催に躊躇となつたので組合内に募金箱を設置し、寄付を受付けました。